

大空町内ゴルフ場の再生可能エネルギー開発にかかる要望意見書

北海道の北東部に位置する大空町は、オホーツク地方の空の玄関口である女満別空港を有する面積343.66㎢の第一次産業（農業・漁業・林業）を中心とした人口6,300人余りの町です。空港が有ることから、町外から多くの観光客が訪れる道東周遊の拠点になっている地域でもあります。

平成13年には約16年の歳月を費やしたゴルフコースが開業し、町民の健康、町外からの誘客そして商業の振興へと寄与してまいりました。ここに来て外国資本の会社がこのゴルフコースを取得し、メガソーラーを設置しようとしています。

このことから、下記の理由により国・北海道としても、この開発を安易に認めるのではなく、自然環境を守り、地域の活力を失わないためにも大空町民の声を聞いていただき、適切な対応をお願いするものであります。

記

- 1 メガソーラー施設は自然災害のリスクが高まることが懸念されます。面積1.2㎢余りの土地の大部分にソーラーパネルを設置することにより、特に土砂災害（平成27年には48時間300mmの降雨）のリスクが増えることへの脅威があります。
- 2 広大な太陽光パネルの設置による景観破壊や、ヒートアイランド現象、パネル反射による周辺住宅・施設への影響も無視できません。女満別地区の豊かな自然と調和した町づくりを損なうことは、地域の魅力を大きく低下させるものです。
- 3 当町の数少ない雇用の場として重要な施設であり、地域経済の発展維持に大きく貢献しており、閉鎖されることにより地域経済に深刻な影響を与えます。
- 4 当町住民・地域間交流の拠点及び関係人口の増加に寄与しています。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和7年7月28日

大空町議会議長 原本哲己